

# 平成17年度 試験研究（中間）評価整理表

整理表2

試験研究機関名 環境医学研究所

所管グループ 薬務グループ

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究期間		評価結果	コメント	外部評価アドバイザーのコメント	評価結果の反映状況(予算要求・手法・その他)
	施策目標	研究課題分類				始期	終期				
1	3-2-新しい産業の育成(医療・福祉関連産業の振興)		種々な疾患における人血清ヒアルロニデース活性の意義	平成16,17年度の両年でできるだけ多くの人血清のヒアルロニデース活性の測定を行う。医療現場に技術移転が可能のように細部の方法に修正を加えながら測定例数を積み重ね、人血清中のヒアルロニデース活性レベルの凡その範囲を確認し、異常値を検出する。	病院検査室での検査終了後の保存人血清の供給をうけ、36検体/週を目標として電気泳動を行い、染色後の画像からヒアルロニデース活性を求める。例数の蓄積が最大の目標である。	16	20	B	本酵素の測定法を確立し、臨床現場で応用可能となれば、県民の健康維持・管理に寄与すると考えられるので、継続して実施すべきである。	当該酵素の異常値と関連のある疾患を明らかにするためには計測例の例数が多数であることが肝要である。関連疾患が見つかったなら、極めて大きな成果となるといえる。	現在計測例数の蓄積に努めている。また、多くの測定値から外れた値を示す血清は再測定をして測定値の精度確認を併せて行っている。予算要求、手法等については、計画通り実施する。
2	2-3-ライフステージや疾病に応じた保健予防対策の充実		骨髄不全症候群の病態解明	骨髄不全症候群は、前白血病状態として位置づけられており、その発症には何らかの免疫学的機序および発癌機序が関与していると思われるので検討する。	1 骨髄不全症候群の免疫学的機序の解明 2 骨髄不全症候群の発癌メカニズムの解明	15	19	A	骨髄不全症候群の将来的な治療(分子標的療法)を考えた場合、本研究は必須と考えられるので、継続して実施すべきである。	当該疾患の標的抗原が明らかになり、予想以上の速さで研究が進行していることは、高く評価される。内外の学術誌等への発信が望まれる。患者会のニーズに根ざした点も評価される。	予備実験の段階において、方法的には問題ないことが判明しており、計画通り実施する。予備実験段階の結果は出ており、2005年米国血液学会(12月)で発表予定である。今後、Real-time RT-PCR法やSequence analysis法を追加して外国の有名な雑誌に投稿予定である。